

平成 24 年 4 月 21 日

北関東フォーラム

於：シムックス

## 中齋塾 北関東フォーラム

### 平成 24 年 第 3 回講話

#### 言葉の持つ重み・深み

皆さんにお聞きします。「皆様方は日本人ですか？」

何を当たり前のことを聞いているのかと思われるでしょう。しかし「あなたは日本人として相応しいですか」と聞かれたらどうでしょうか。

今、日本の総理大臣はころころ変わって、外国から見ると日本はどうしようもない国だと思われています。確か安倍内閣の時、イギリスの議員さんたちの間で<環境問題について、日本のことをきちんと説明できる日本人はいないのか・・・>という話になり、日本人のルーツ、日本人のものの考え方、日本人の行動様式等々を日本国民を代表してきちんと英語で説明の出来る人を呼んで欲しいということになった。安倍さんは落第でした。そこで、中齋塾顧問の木内孝さんが呼ばれて話をした、という話を以前したと思います。

はたして日本の政治家の中で、イギリスの国会に行って格調高く英語でスピーチ出来る人間はいるのか。2つハードルがありますから、かなり難しいと思います。

英語のスピーチが出来なくても、日本人とはどういう民族であるとか、どういう思考様式や行動様式を持っているといったことを自覚した上で、「私は日本人です」と言える人がどれくらいいるのかという意味で質問を致しました。

「日本人ですか」と聞いた時に、皆、国籍はどこかと聞かれたのだと勝手に思って、「日本人です」と言います。しかしこの問いの背後には、日本人の歴史、民族性、特質等々を色々な学問をまたがって理解し、それらをまとめて話が出来る能力を持っている人はいますか？ という意味があるのです。<日本人とはこういうものです>と話が出来、そして<自分自身がそういうDNAを持った日本人です>と言える人は？ と聞くと、なかなか手が挙がりません。尚且つ、それを英語で説明できる人は？ と聞くと、もっていないでしょう。

ですから一つの質問の中に、背後に隠されたものが沢山あるということを理解してください。それを身体で覚えておかないと、なかなか一人前の人間として世の中には通用しないと思っています。

## 中斎塾フォーラムでの学び

今日は、お若い初めての方が沢山参加しておられますので、中斎塾フォーラムの性格をお話しましょう。

中斎塾フォーラムの理念・基本的なものの考え方は、「知足」です。ほどほど・分限・分際・分を知るといった言葉がありますが、要するに、あまりがっつかないということです。

「足るを知る」という言葉にはもの凄く深い意味があります。中斎塾フォーラムはそういう言葉の持つ重み・深みを体験し実感することが出来る、そういう所でありたいと思っています。

「知っている？」と聞かれて、「はい、知っています」と答えるのはかなり大変です。世の中の奥様方は大概、ご主人のことをよく知っています。ご主人の人となりを聞かれても、ずっと説明できるようです。ところが旦那さんはどうでしょうか。奥さんの性格、好き嫌い、友達・・・なかなか答えられないと思います。私も家内に「お父さん、私はあなたのことをよく知っているけれど、私のことを知っている？」と聞かれて、返答に困りました。考えれば考えるほど家内のことをほとんど知らない。夫婦で長い付き合いをしていても、相手について知らないことが多いものです。

中斎塾フォーラムでは論語を勉強していますが、「論語を知っていますか？」と聞かれて、「知っています」と軽く答える人は、やはり周りからも軽く見られます。「論語ってどういうものですか？」と聞かれて、答え方は二通りあります。ちょっと分かっている程度の人には、「はい、知っています」と答える。一方、論語はもの凄く深い中身を持っていて言葉にすることは難しいということを知っている人は、口ごもる。口ごもる人と口ごもらない人、その時の目の輝き方とか言葉の出し方・態度をよく観察していないと、その人が深みのある人か、薄っぺらな人か、なかなか分からないものです。「知っている？」と聞かれて「はい、知っています」と答える人は要注意です。

論語の中に「一知半解」という言葉があります。知ったかぶりをしなさんな！ということです。「知っている」と言う人のレベルがどの程度か見極めることも大切ですし、又、自分のレベルはどこらへんなのか認識することも必要です。

自分のレベルがどこらへんなのか、一つの判断基準があります。何の学問でもそうですが、知らないことを一所懸命覚えて納得しながら、ちょうど富士山を登っていくように学んでいきます。頂上まで行けば視界が広がって物事がすっきり分かるだろうと思って頂上を目指します。そうすると、或る日どこかで富士山が逆転するのです。そろそろ頂上に近い、或いは頂上に立ったなと思うと、その先に富士山が逆三角形で見えてきます。そこで

自分は何と物を知らなかったのだろう、見えていなかったのだろうということをつくづく味わう。その時点が、学ぶということのスタート台に立った時なのです。

中斎塾フォーラムでは、基本理念の「足るを知る」について、色々な実例を沢山紹介して、自分で体験してもらおうということを繰り返しています。実例で物事を話す、事実を自分の言葉で客観的に言うのが良いと思っています。

また、中斎塾フォーラムでは論語を勉強します。学者の先生が論語を解説する際、よく字句の解釈をしますが、私は渋沢栄一さんの解釈の仕方をとっています。渋沢栄一さんは「日常生活に役立つなければ学問とは言えない」という考え方です。例えば、先ほど素読をした論語の部分について渋沢栄一さんは、「この部分はずまらない。二千数百年前の中国の礼儀の具体的な作法を現在に活かそうと思っても無理な話だ」と、学者の先生の解釈を軽く流して、現在に通用する解説をしています。私は渋沢栄一さんの論語の解釈の仕方が大好きで、中斎塾フォーラムでも論語を現代に置き換えて解説しています。今の時代に役立つ、日常生活に役に立つ判断基準を論語の中から取ろうと思っています。

私が論語の中からとった判断基準は、「利に放りて行えば、怨多し」です。先日、シムックスの営業所で懇談会をしましたら、その所長が「値段の勝負で受注したお客様は、値段で去っていく」と言いました。良いことを言うなと思いました。目先の利益で良さそうな話にパクッと食いつくと、かならず厄介事が起こります。渋沢栄一さんも「利に放りて行えば、怨多し」を経営の基本に据えて実行しましたし、「青年実業家・紳士淑女諸君は、目先の衝動（利）で行動してはいけません。世の為・人の為になることを判断基準にして仕事をしなさい」と書き残しています。

他にも論語の中には、夫婦喧嘩をした時の収め方も書いてありますし、商売で成功する方法も書いてあります。渋沢栄一さんは、「困った時には論語を見れば、論語の中に答えがすべて書いてある」と言って、一生涯自分の判断基準として論語を活かしていました。

## 今日の論語

では、現代に活かすように論語を読みましょう。何か一つでも自分にとってこれは良い科白だと思えるものが見つかれば成功です。

本日の論語は郷党第十 1～3です。

【一】 孔子 郷党に於ては、恂恂如たり、言うこと能わざる者に似たり。其の宗廟  
朝廷に在りては、便便として言う、唯謹むのみ。

孔子が自分の郷里で近所の人たちと話す時は、口ごもってなかなか物が言えない様子で、実直な田舎者のような雰囲気である。

しかし、先祖の宋廟（おたまや）や朝廷の会議する場にあっては、すらすらと話をする。ただ、謹厳実直の態度は変えない。

先ほど、口ごもって物が言えないというのは二つの場合があると申しました。郷里での孔子が恂恂如（口ごもってものが言えない）というのは、周りの人たちを敬うような意味合いで、長幼の序を重視しているからです。

【二】 ちょう かたいふ い かんかんじょ じょうたいふ い ぎんぎんじょ  
朝にて下大夫と言うときは、侃侃如たり。上大夫と言うときは、闇闇如たり。  
きみ いま しゆくせきじょ よ よじょ  
君在すときは、蹶蹶如たり、与与如たり。

孔子が朝廷の会議で自分より目下の人と話をする時には、和やかに穏やかに話して、部下の者が気楽に発言できるような雰囲気をこしらえる。

同役の大臣と話をする時には、程よい口調で争わない。

主君がおられる時は、恭しい態度でゆったり静々とした言動をとっている。

「上大夫と言うときは、闇闇如たり」の部分を現代に置き換えてみると、今の民主党の大臣さん方は争わないどころか、年がら年中足の引っ張り合いをしています。会社で見れば、課内の上司同士、或いは部長さん同士でお互い足の引っ張り合いをするなどはよくないと読めばよろしいでしょう。

【三】 きみ め ひん いろ ぼつじょ あし かくじょ とも た ところ ゆう  
君召して擯せしむるときは、色勃如たり、足躩如たり。与に立つ所を揖す  
て さゆう ころも ぜんご せんじょ はし すす よくじょ ひん しりぞ  
るときは、手を左右にす。衣の前後、檐如たり。趨り進むときは、翼如たり。賓退く  
かなら ふくめい いわ ひん かえり  
ときは、必ず復命して曰く、賓顧みずと。

孔子が国賓の接待役を命じられた時は、顔色がさっと変わり、歩みもゆっくり恐る恐る歩き、衣の裾は広がってしまわないようにきちんと捌く。

接待役が何人か並んで立つ時は、手を組んでやや高くに上げお辞儀をする。その時、右側にいる人は来賓の意向を受ける役で、左側の人は係りに伝えるという役割分担をわきまえて手を動かす。

走り進む時は、肘を張って恭しく小走りをする。

国賓が退出される時は門の外まで見送り、お客様が振り返らなくなるまで見送ったことを主君に報告した。

### 大きな目標を持つ

今日ご紹介する本は、曾野綾子さんの『老いの才覚』（ベスト新書）です。

曾野綾子さんは70代の時に二度、右足首骨折と左足首骨折をしたそうです。手術をして成功したのですが、以前より歩くのがぎこちなくなりました。お医者さんにクレームをつけると、筋肉が衰えたのだと言われたそうです。そこで洋服を和服に替えて、（そうすると筋肉の使い方が違って来るそうです）筋トレを始めた。その結果、まあまあ普通に歩けるようになっていると書いてあります。

もう一人、三浦雄一郎さんのお話をしましょう。東京フォーラム会員の竹岡さんの出版記念パーティーに出席した時、その席で三浦雄一郎さんがお話をされました。その中で「目標を持っていないと人間駄目ですね。私が見本です」とおっしゃった。三浦さんはエベレスト登頂を達成して、人生の目標がなくなってしまった。その後、飲むは食べるはの生活で、気が付いたらメタボの成人病で死ぬ一歩手前になったのだそうです。これは大変と一念発起し、もう一度エベレストに挑戦するという目標を持って日常生活を変えた結果、2、3年で体調が戻ってきたと言っておられました。

大きな目標を持つと、これで死んでしまうというくらいの体力の人が、ぐんぐん変わっていくことが出来る。曾野綾子さんも筋トレで軽やかに歩けるようになったわけです。まだ五体満足で大丈夫だと思っている人は、とても達成できないような大きな目標を持つと、がらっと変われます。特に若い人の場合は、大きな目標を持つに限ると思います。

### 恒例の質問

大きな目標を持って戴くとよいとお話しましたが、同時に日々の習慣で持つとよいものをご紹介します。中斎塾フォーラムでいつもお聞きする質問です。

昨日一日、嘘をつかなかった方？

昨日は良い日だったと思う方？

昨日一日、有難うと言い・有難うと言われた方？

昨日一日、何か健康のための運動をした方？

55歳を過ぎると身体に著しく変調をきたします。それを自覚できる人とできない人がいます。60代になると、体力の落ち方がつるべ落としと言います。70代になると、周りからも見えるほど体力の落ち方が激しい。やはり10代20代の頃に鍛えておくと、それが20年

後 30 年後に生きてきます。40 代 50 代に鍛えておくと、20 年後にそれが生きてきます。健康法とは、20 年後の自分の為だと思って実践してください。まだ、何も健康法をされていない方は、自分にあった健康法を見つけるとよいでしょう。

### **本質・大局・歴史**

本日のテーマは本質・大局・歴史です。物事を判断する時には、本質を見る・大局を見る・歴史を見るとよろしい。

#### **・本質を見る**

石原都知事が、尖閣諸島を東京都が買うと言い出しました。そこに至るまで、かなり時間がかかりました。国に対して「吠え面をかかせてやる」と言っている様子がテレビで流されましたが、国のやり方に対して心底腹をたてているというのが伝わって来ます。自分の言葉で、相手に自分の考えていることや感情まで伝わる、そういう政治家は少ない。そういう点で石原慎太郎さんはよいと思います。

では、石原さんは何故、東京都が尖閣諸島を買うと言い出したのか？ それを詰めていくことが本質を捕まえることになります。物事を判断する時には、自分の目線で、何故？何故？・・・を追いかけていくと本質が見える。

#### **・大局を見る**

大局は、色々な人の立場でものを考えることです。石原さんの発言について、政府の立場ではどうか、官房長官の立場ではどうか、首相の立場ではどう考えるか。更に、自民党の立場ではどうか、野党の立場はどうか、行政のトップにいる人はどうか・・・、一つ一つ考えてみる必要があります。

いま一つ、物事を判断する時に、知識・見識・胆識のレベルがあります。知識のレベルをお話します。尖閣諸島は国の問題です。国家を構成する三つの条件は国土・国民・政府です。日本という国家は今、危機に瀕しています。国土を諸外国から狙われて、尚且つ、合法的に買われたり取られたりしています。

一昔前、ソ連は北海道をソ連にしようと考えて実行しました。その結果として今、北方領土のみ実行支配しています。

中国はどうでしょうか。先日、ブータンの国王夫妻が来日した際、ペマ・ギャルポさんという方が通訳をしました。その方が中国の対日本政策について本を書いています。その内容が『カレント』という雑誌の中で、「中国の対日本政策の戦略目標は、日本の天皇陛下を

戦犯として裁き、死刑にすることだ」と紹介されています。中国という国が、中国軍の重要な戦略目標として日本の天皇陛下を戦犯として死刑に処するという事を明確に打ち出しているということは、中斎塾フォーラムの参与が中国の軍人さんから直接聞いた話と一致しています。ですから中国は日本をそう見ているのだと思います。更に、ペマ・ギャルポさんの本には、「中国は日本を植民地化し、日本に中国の海外政府を作ることを目的にしている」とあります。日本は中国に確実に狙われているのです。

又、韓国は対馬の土地を買い、中国は新潟の土地を 6000 坪も買っていると云います。

人様から聞いた話、或いはテレビや新聞で見た話、これらは全部知識です。それに行動経験が加わり、総合的直観力が動いて、<日本の国はこうあるべきだ・こういう方向に進むべきだ>という見解を出せる状況になったものが見識です。

私が中斎塾フォーラムで話をする際の学問的な裏づけは陽明学です。陽明学は行動を重視します。ですから、韓国が対馬を買ったという産経新聞の記事を読んですぐに私は対馬に行き、新聞が言っていることがどの程度本当か、地元の市役所の担当者に確認しました。新聞の方が少し過大に書いていると感じました。

中国にも度々行きましたが、今申し上げたことがやはり実感として感じられます。中国は中華思想で塗りつぶされていますから。最近、中国がアメリカに対して水面下で、太平洋を半分くらいに切ってアメリカと中国で二分するという考えを申し入れているそうです。日本の政府は何をしているのでしょうか。

北朝鮮に拉致された国民を助けることもできない。国民の命が脅かされている国、領土が合法的に他国に移っている国、世界から馬鹿にされている政府、どんどんどんどん日本の国力は落ちていきます。経済大国と言われたのはもうお終い、まさかさまに落ちている状況です。2030 年には下手をすると日本が他の国の属国化する危険性が非常に高い、今は転換地点だという言い方が少しずつ出てきています。

#### ・歴史を見る

では、日本が他国の支配下に置かれるようになった時にどうなるか。これについて考えるには、歴史で見るのがよいと思います。

昔、モンゴルが日本に攻めてきました。元寇です。モンゴル軍が日本人を奴隷として捕らえた時、日本人の手のひらに穴を開けて紐で結んで連れて歩いたと云います。

そういう物理的な占領だけでなく、精神的な占領もあります。終戦直後、アメリカが打った手というのが日本国民の弱体化です。日本人を骨抜きにするという考え方で、3 S 政策というものを打ち出しました。3 S、スポーツ・スクリーン・セックスです。ちょっと

見ると良さそうですが、物事を自分たちで考えなくなるようにする、一億総白痴化ではありませんがとんでもない政策です。知識は持たせても見識は持たせないようにするわけです。今、野球は日本国中に広がって盛んになりましたが、最初の動機は、野球で汗を流させて物を考えないようにさせるという目的でした。スクリーン（映画）でアメリカの文化を輸入することによって、頭の中をアメリカナイズさせる。セックスに耽溺することによって日本人を骨抜きにってしまう。

その3S政策が成功して、日本は今現在、骨のある国家とはどこからも見られていない。打ち出の小槌（言えば金が出てくる）国家で、IMFにお金を沢山出しているのですからとんでもないと思います。

国家としてはどんどん骨抜きになっています。胆識（見識に実行力が加わったもの）など全くない国家に成り下がっているのが今の日本です。見識があるかということ、ごく一部の人にしかない。知識はあり過ぎる。知識はあり過ぎるのですから、その中でどういう知識を身に付ければ良いか、それを判断する材料、判断基準を我々は持たなければいけません。

## 時事問題

### ・デフレ改革

最近の動きを見ていると、デフレ脱却に向けて・・・などと政策を打ち出していますが、出来るはずがありません。なぜなら、国家の借金が1000兆を超したと言われていますが、これがインフレになればチャラになるのです。本当はインフレにもって行きたいという希望が腹の中にはあるのです。しかし、いっぺんに持っていくとひっくり返ってしまいます。今、日本の国が進んでいるのはスタグフレーションです。デフレ下における不況、デフレとインフレが共存している状況がスタグフレーションです。デフレ脱却などと口先で言っても、本音ではデフレ改革などしようと思っていないのです。

### ・消費税

消費税を2014年4月に8%、2015年10月に10%にするなどと姑息な上げ方をしようとしています。政府の打つ手について、本当に日本の国の為にそうしようと考えているのかどうか、よく考えて見るとよろしい。

アメリカが言ったことを日本は大体実行しています。ですから国会の論戦を見て、これはアメリカが突きつけてきた要求を実行しようとしているのではないか、という腹が透けて見えたなら、知識から見識に入りかかっています。自分のレベルがどこら辺か、考えるよろしいでしょう。



#### ・国民の共通番号制度

国民の共通番号制を2015年1月実施という案が出ています。とりもなおさず税金をすかさず取るためです。何度もお話しているように、「国民に税金をむやみやたらとかける国は滅びる」と山田方谷が『理財論』の中で書いていますが、まさに今はその状況です。

今、源泉徴収で給料から税金が引かれていますが、源泉徴収はもともと戦費の調達のために臨時で始まったものです。それも、戦争が終わったら源泉徴収はしないという公約を始めたものが現在に続いている。

年金も同じです。日本人の男性の平均寿命が50歳を超したのは昭和22年です。年金のスタートは、日本人の平均寿命が50歳に達していない時に、年金を積み立てて60歳になったら払いますという約束で始めたのです。最初から詐欺で始まった。しかも途中で積み立てたお金を使ってしまったものだから、いつの間にか賦課方式になった。最近のマスコミの論調を見ると、もともと年金は積立方式で始まったものが途中で賦課方式に変わったという説明を誰もしていません。誰も発表しないままで、なし崩しで変わっているのです。年金に関して私は、政府が国民を相手に詐欺をしたのだと思っています。

#### 判断基準を持ちましょう

時事評論をお話しましたが、大切なのは判断基準を持つということです。一つ一つの問題が出た時に、その問題に一喜一憂しないこと。評論家の解説を聞いて、自分が正しいと思ったなら正しい、おかしいと思ったなら間違いなくおかしいと主張できるようになれば、たいしたものです。出だしは評論家の喋っていることが気に入るかどうかがです。気に入ったら正しいと思って間違いがない。そのように頭の中を変えていくとよろしいでしょう。

判断基準を持って一つ一つの事象を見て、もし分からなかったら、何故？ 何故？ 何故？ と考えると本質が見えてくる。

更に色々な人の立場でそれを考えると大局が見えてくる。

なかなか見えない時は歴史的に見て、話の出だしは何か、出所はどこかを考えていくと判断がつきます。

それでも分からない時は、知っていそうな人に聞いてみてご覧なさい。それで納得のいく答えが出れば一歩進みます。

本日の講話は以上です。有難うございました。

